



競輪の補助事業

この事業は、競輪の補助により実施しています。
<https://hojo.keirin-autorace.or.jp/>

< オリンピック・ムーブメント事業 >

JOCオリンピック教室

実施報告書

石川県 宝達志水町立宝達中学校



公益財団法人 日本オリンピック委員会

「オリンピック教室」の実施にあたって

平成21年4月の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会等は、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

令和6年4月

公益財団法人 日本オリンピック委員会

- 目的： オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、
オリンピック自身の様々な経験を通して
「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、
この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、
日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう。
- 事業名： JOCオリンピック教室
- 主催： 公益財団法人日本オリンピック委員会(JOC)
- 後援： スポーツ庁
- 協力： 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対象： 中学校2年生
- 講師： オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）※派遣オリンピックはJOCが選定
- 期間： 2024年4月～2025年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数： 80校程度
- 実施方法： クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1コマ目 運動の時間 / 50分

身体を動かしながら生徒との距離を縮め、
チームワーク、フェアプレー、身体を動かす
ことの楽しさ等を感じてもらいます。



2コマ目 座学の時間 / 50分

競技者人生を振り返り、自身が感じた
オリンピックの価値を生徒に伝え、
オリンピックをより身近に感じてもらいます。



1コマ目

運動の時間 / 50分

オリンピックの専門競技の技術指導(=スポーツ教室)ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶(5分)

準備体操(10分)

主運動(30分)

まとめ(5分)



自己紹介
学習内容の確認



準備体操



主運動
(作戦タイム等を設け、
生徒が考える機会を作る)



運動の時間のまとめ

2コマ目

座学の時間 / 50分

国際オリンピック委員会(IOC)が推進する「オリンピックの価値」等を、オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際にオリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に活かせるような学習内容

挨拶・自己紹介(10分)

オリンピックの価値を伝える(10分)

グループワーク(20分)

まとめ(10分)



学習内容の確認



写真・映像等を使用した自己紹介



オリンピック自身の経験に基づく「オリンピックの価値」等を伝える



個人またはグループワークで話し合った内容を発表



全体のまとめ
記念撮影(クラス写真)

※時間は目安です。

※内容はオリンピックによって変動する場合があります。

●時間割について

- ・1クラスにつき、運動の時間+座学の時間の順に、2時間連続で実施します。
- ・1コマ目の運動の時間は体育館で、2コマ目の座学の時間は当該クラスの教室で行います。
- ・原則1クラスの場合は3-4時限目、2クラスの場合は3-6時限目、3クラスの場合は1-6時限目の調整となります。
- ・1日に実施できるクラス数は最大3クラスまでです。4クラス以上実施する場合は2日間以上での調整となります。
- ・同じ時間に複数クラスを実施することはできません。

■オリンピック：皆川賢太郎先生（スキー／アルペン）

【出場オリンピック／長野1998、ソルトレークシティー2002、トリノ2006、バンクーバー2010冬季大会】

■期 日：2024年11月19日(火)

■ク ラ ス：2年1組／運動の時間

○自己紹介～授業の目的確認～準備体操



3歳からスキーを始め、17歳でプロになり約20年間選手として活動し、夢を諦めずに追いつけたことでオリンピックに出場することができた。現在は冬季競技の発展に尽力していると自己紹介。運動の時間は、スポーツを通じて皆にオリンピックバリューを感じてほしいと授業の目的を説明。準備体操として学校で行っている体操を代表生徒が主導して行った後、2人組でバスケットボールを1球持ち、ドリブルとパスを組み合わせた準備運動を実施。

○主運動等



主運動は人間スラロームターンを実施(全3回)。班毎に分かれてスタートの合図で1人ずつマーカーまで走り、1つ目のマーカーから順に座る。2人目以降は、先に座っている人の間をS字を描くように走り抜け、2周目は1人目が座っているマーカーからS字で走り、コーン到着後、2人目が同様にコーンを超えるまで繰り返す。2回目以降は往復として、往路で全員がコーンを通過したら、復路は一斉に走ってスタート地点へ戻り、全員が座って挙手をしたらゴールとする。



運動の時間を振り返り、良いタイムを目指すためにチームで改善点を話し合い、人数を揃えるために先生を入れようという提案があったのはとても素晴らしく、チームワークやコミュニケーションの大切さに気付けたかと思う。座学の時間は、競技生活で感じたことを振り返りながら、オリンピックバリューについて皆で一緒に考えた後、一人一人が夢や目標を持った主人公であるということを伝えたいと話し、授業終了。

■ **オリンピック**：皆川 賢太郎 先生 (スキー／アルペン)

【出場オリンピック／長野1998、ソルトレークシティー2002、トリノ2006、バンクーバー2010冬季大会】

■ **期 日**：2024年11月19日(火)

■ **ク ラ ス**：2年1組／座学の時間

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



映像を見ながらスキー／アルペン競技で冬季オリンピック4大会に出場し、現在は冬季競技の発展に尽力していると自己紹介。自分の経験を振り返りながらオリンピックバリューについて、エクセレンスは自分を信じる事、フレンドシップはライバルの存在、リスペクトは他を認めること等と説明し、今日の授業を通じて、夢や目標に向かって何をすればよいかを整理できるようなキーワードを見つけてほしいと伝える。

○個人ワーク～グループワーク等



発問：夢をつかむために今何をしたらいいのか、何が足りないのか、考えてみよう。

発表：エクセレンス：「目標を明確にする」「本気で頑張る」「継続する」「練習を本番のように取り組む」等

フレンドシップ：「チームワークを高める」「良いライバルを見つける」「人脈を広げる」等

リスペクト：「コミュニケーションを大切にする」「ポジティブ」「経験を積む」「好きなことを見つける」等



座学の時間を振り返り、皆が夢や目標を見つけているとは限らないが、勉強や部活動、普段の生活の中で目標に向かって頑張ることも夢の1つであり、しっかりと打ち込める好きなことを見つけてほしい。皆にとって24時間365日は平等であり、夢や目標を持つことで、さらに時間を有効に使う意識が高まる。自分の人生の主人公として、より良い人生のルールを伸ばしているように夢や目標を持ちながら、これからの学校生活を送ってほしいと伝え、授業終了。

■オリンピック：皆川賢太郎先生（スキー／アルペン）

【出場オリンピック／長野1998、ソルトレークシティー2002、トリノ2006、バンクーバー2010冬季大会】

■期 日：2024年11月19日(火)

■ク ラ ス：2年2組／運動の時間

○自己紹介～授業の目的確認～準備体操



スキー／アルペン競技で冬季オリンピック4大会に出場したと自己紹介。オリンピックバリューについて説明し、運動の時間では、班毎に分かれてゲームを実施していくので、3つの価値を意識しながら参加してほしい。準備体操後、2人組でバスケットボールを1球持ち、ドリブルとパスを組み合わせた準備運動を実施。アルペンはタイムで順位が決定するので、2回目は皆もタイムを意識しながら取り組んでほしいと伝えて実施した。

○主運動等



主運動は人間スラロームターンを実施(全3回)。班毎に分かれてスタートの合図で1人ずつマーカ―まで走り、1つ目のマーカ―から順に座る。2人目以降は、先に座っている人の間をS字を描くように走り抜け、2周目は1人目が座っているマーカ―からS字で走り、折り返し地点のコーン到着後、2人目以降、同様にコーンを超えるまで繰り返す、全員がコーンを通したら、復路は一斉に走ってスタート地点へ戻り、全員が座って挙手をしたらゴールとするまでのタイムを競う。



運動の時間を振り返り、スポーツに限らず、より良い結果を求めて同じ目標を持つ仲間と改善点を話し合い、一緒に努力し、協力して解決することは順位や結果よりも大切なことである。座学の時間は、自分の経験を振り返りながらオリンピックバリューが、どのように結び付いているのかについて話し、その3つの価値が主人公である皆の道しるべの一つになるように一緒に考える時間にしたいと伝え、授業終了。

■ **オリンピック**：皆川 賢太郎 先生 (スキー／アルペン)

【出場オリンピック／長野1998、ソルトレークシティー2002、トリノ2006、バンクーバー2010冬季大会】

■ **期 日**：2024年11月19日(火)

■ **ク ラ ス**：2年2組／座学の時間

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



映像を見ながら、身近にスキーのできる環境があり3歳からスキーを始め、17歳でプロになり20年間選手として競技に取り組んできたことと自己紹介。オリンピックやオリンピックシンボル等について説明した後、自分の経験を振り返りながら改めてオリンピックバリューについて考えてみると、それぞれの行動はその3つの価値に寄り添っているものであったと話す。皆も自分の人生の糧の一つとして取り入れ、夢や目標を叶えるキーワードとして使ってほしいと話す。

○個人ワーク～グループワーク等



発問：夢をつかむために今何をすればよいのか、足りないものは何か、考えてみよう。

発表：エクセレンス：「諦めない心を大切に」「自分の武器を活かして夢につながる努力をする」「自分を信じる」等

フレンドシップ：「色々な考え方を知る」「仲間と共に協力する」「手話や多様な言語に対応する」等

リスペクト：「真面目に取り組む」「正しい知識を身につける」「全力で楽しむ」等



座学の時間を振り返り、グループワークを通して話し合った意見を踏まえて、自分にとってのオリンピックバリューを考えることができたと思う。スポーツに限らず、目標や夢に向かって行動し、その中で得られた経験や反省点は必ず自分の成長につながる。これからの学校生活や自分の人生において、この3つの価値を意識して、一人一人が人生の主人公として大きく成長し、活躍することを願っていると伝え、授業終了。

■集合写真

・2年1組



・2年2組



■記念品贈呈

・2年1組



・2年2組



■修了証贈呈

